

第10回柏崎市学区等審議会 概要報告

1 日 時 令和4年(2022年)8月25日(木)午後6時30分～午後8時15分

2 会 場 柏崎市役所1階 多目的室1、2

3 出席者

- (1) 委員 20名 阿部会長、徳永副会長、五十嵐委員、池嶋委員、大谷委員、片山委員、北村委員、小林(眞)委員、小林(美)委員、関矢委員、遠山委員、富川委員、中村(豊)委員、中村(義)委員、拝野委員、宮坂委員、矢代委員、山田委員、吉田委員、飛田委員
- (2) 事務局 3名 宮崎教育部長、田辺教育総務課長、池田学校教育課長
- (3) 傍聴者 3名
- (4) 報道 2名

4 会議概要

(1) 開会あいさつ 阿部会長

(2) 審議事項

グループ討議の報告、質疑

(3) その他

① 次回審議会の日程

9月8日(木) 午後6時30分から

市役所1階 多目的室1、2

② その他

(4) 閉会あいさつ 徳永副会長

発 言 者

発 言 概 要

【開会あいさつ】

会 長 : 私の父親は教員であった。長い教員生活の中で小学校8校、中学校2校の計10校に赴任したが、その中で今も存続している学校はわずかに1校だけであり、残りの9校は全て統合でなくなってしまった。特に父親の場合は周辺部の学校ばかりを回っていたため顕著かもしれない。

それにしても地域の学校の歴史は統合の歴史とっていいくらい統合が繰り返されてきている。教育環境への考え方の変化や地域の過疎化、市町村合併等を含めた大きなくくりの中で、統合が歴史の大きな流れとなっていることは否定できない。ただ、結果として歴史の流れになったという一面もあるだろうし、統合された案件、されなかった案件を一件一件見ていくとすれば、必ずしも歴史の必然だからというだけの検討ではなく、それぞれの学校・地域の固有の事情、その時点での公平な視点を踏まえた議論の上で判断・選択が行われてきたはずである。それによりすんなり統合が決まったもの、苦渋の決断で統合したもの、また場合によっては統合が見送られたり、先延ばしにされたものもあると思う。私たち学区等審議会はこういう局面で最初の判断・選択をする役割を担っていることを改めて自覚し、今後の一次答申に向けた最終盤の審議に臨んでいきたい。

本日は前回までのグループ討議の報告と質疑を行う。今までと同様に活発な質疑をお願いしたい。

【報告事項】

- 事務局： 他市の通学時間の状況に関して報告させていただきたい。
- 会長： 発言を認めてよろしいか。
- 委員全員： 異議なし
- 事務局： 審議会や意見拝聴会において、通学時間に関する意見を多くいただいている。その中で、高柳地域と同様に降雪が多い県内の6市にスクールバス通学時間の聞き取りを行った。通常時のスクールバス運行時間及び冬期間の運行時間を資料にまとめたので、今後の審議の参考にさせていただきたい。
- 委員： 調査した各市の通学距離を教えてください。
- 事務局： 今回は通学時間に関して調査を行ったため、通学距離は把握していない。
- 委員： この資料からはいずれの市も通学時間が1時間以上にならないように学区を設定しているように読み取れる。乗車地点を図示した地図や通学時間が知りたい。
- 事務局： スクールバス乗車時間が一番長い子どもの通学距離を次回の審議会で提示する。地図は他市に作成してもらう必要があることから、準備が難しいことをご了承いただきたい。

【審議事項】

- 会長： それではグループ討議の報告、質疑に入る。1グループから4グループまで順番に発表を行い、各グループの発表が終わった後に、そのグループへの質疑を行う。発表と質疑を合わせて20分以内とする。「鯖石小と高柳小の統合について」「東中と第五中の統合について」の2件の諮問事項に対して意見が明確に分かるように別々に発表することとする。
- 今日は報告と質疑のみとし、次回の審議会までの2週間で各自の考え方を整理してもらおう。次回の審議会で意見を集約し、審議会として一定の方向性を出すための審議を行う。当然グループによって異なる意見もあると思うが、審議会としては一つの結論を出さなければならない。委員一人ひとりがその道筋や、どういう歩み寄りができるかを考えてきてほしい。

- 委員： まず、グループ1から発表してもらおう。
- グループ1の討議結果を発表する。
- まず、小学校は学区再編方針のとおり令和6（2024）年度の統合に賛成する。その理由は次のとおりである。

- ・6名という高柳小学校の児童数を考えると、少人数教育のメリットが集団教育のメリットを上回るとは言えない。
- ・高柳保育園の子どもは鯖石保育園に通園しており、せっかく保育園で仲良くなった高柳と鯖石の子ども達が小学校入学を機に離れることになってしまふことから、鯖石小学校に通わせても良いという高柳地域の保護者の意見があった。
- ・高柳地域では統合はやむを得ないという意見が一定数出ている。
- ・通学の負担はそれほど大きくない。

時期を1、2年延期してはどうかという意見もあったが、高柳小学校の児童数を考えると統合の緊急性が高く、早急に統合すべきだと考えた。

ただし、この点については統合の整理ができていないうちに見切り発車で統合を進めると、子どもや保護者にしわ寄せが及び、子ども達の教育環境を改善するという趣旨に反する恐れがある。そのため、教育課程のすり合わせや事務的な準備が間に合うことを前提として令和6（2024）年度の統合

に賛成するものであり、教育委員会においてこれらの準備が間に合わないと判断する場合には令和6（2024）年度の統合に固執せず、自発的に延期する決断をしてもらいたい。また、統合した場合でも各地域の良さを子ども達に伝えられる授業や行事を学校教育の中で取り組んでももらいたい。

続いて、中学校は令和6（2024）年度の統合を見送るべきであり、令和12（2030）年度に予定されている東中学校と北条中学校の統合に合わせて第五中学校の生徒数を考慮した上で再検討すべきである。その理由は次のとおりである。

- ・高柳地域から東中学校への通学負担が大きい。
- ・保護者や地域の人から「中学校の統合はやむを得ない」という意見が出ておらず、地域の賛同が得られていない。
- ・第五中学校はまだ複式学級になっておらず、高柳小学校と比べて統合の緊急性がそれほど高くないことから、地域の賛同が得られていない状況で統合を強行するのは時期尚早である。

会 長 : 1 グループの発表に対して質疑はあるか。
委員全員 : 質疑なし。
会 長 : 続いて、2 グループの発表に移る。
委 員 : 2 グループの討議結果を発表する。

まず、小学校は児童数減少により今後の統合の必要性はあるが、解決すべき課題が多いため2年後の統合は難しく、時間をかけて検討すべきだと考える。その理由は次のとおりである。

- ・コミュニティ運営の中に、子どものより良い教育環境をどのように与え続けていくかを常に取り入れていく必要がある。高柳地域のように、地域の中でより良い教育環境が与えられていると感じる地域は統合の必要性をあまり感じない。
- ・今後の児童数や地域のコミュニティ運営を踏まえて、地域と教育委員会と市で地域に学校を残すべきか統合すべきかを話し合う必要がある。
- ・熱心なコミュニティの地域ほど学校統合は地域からの申し出で動くことが理想である。
- ・高柳地域は郷土愛が強く、教育活動も熱心であるため、他地区のお手本として大切に守っていく必要がある。

続いて、中学校は今後の統合の必要性はあるが、2年後の統合は難しく、時間をかけて検討すべきだと考える。その理由は次のとおりである。

- ・通学時間が長時間になるが、現在の教育委員会の説明では地域や保護者の納得が得られておらず、逆に不安を与えてしまっている。冬期間の除雪に係る労力や時間、通勤時間帯の渋滞における時間等をもう少し細かく調査するとともに、通学経路も含めて地域や保護者が納得する説明が必要である。
- ・冬期間の通学時間の調査には最短でも今年の冬を越える必要がある。
- ・第五中学校は不登校等の問題を抱えた生徒の受け入れ先となっている。また、地域も温かく受け入れており、学区外通学をしている生徒も多い。第五中学校が統合した場合、その役割をどの学校が担うのかを教育委員会で検討し、統合する前に説明する必要がある。

今回統合対象となっている東中学校でさえ保護者の関心が非常に薄かった。これは「小規模の学校が自分たちの学校に吸収されるだけで、他には何も変わらないだろう」と感じていることからだと思う。全市で統合について考えていくのであれば、現在の学校区の見直しも検討する必要があるのでは

- ないか。
- 会 長 : 2グループの発表に対して質疑はあるか。
委 員 : 小学校の統合に関して質問させてもらう。
地域フォローがあるにしても、学年に1人という状況が本当に良い教育環境なのか疑問を感じる。地域として「統合を必要としない」という考えがあるとしてもそれは大人の意見である。もし統合した方がより良い環境で教育を受けられるのであれば、大人の意見によって子どもたちの機会を奪ってしまうことになる。それについてはどう考えるか。
- 委 員 : 2グループでは小学校と中学校を分けては考えられないという意見のもと、鯖石小学校と高柳小学校が統合すると必然的に中学校は東中学校へ通う道筋ができてしまうと考えた。そうした場合に通学距離が長すぎるため、このような結論に至った。
- 会 長 : 続いて、3グループの発表に移る。
委 員 : 3グループの討議結果を発表する。
まず、小学校は学区再編方針のとおり令和6（2024）年度の統合に賛成する。その理由は次のとおりである。

- ・高柳小学校で1学年1人の子どもと3人の子どもの授業を参観したが、1人の授業は他の子の意見を聞くことがなく、授業というより個人学習に近いように感じた。必然的に教員への依存が強くなることが心配される。
- ・鯖石小学校の授業参観では複式の授業でも人数が多いことから授業に活気があり、子ども達は活発に発言し、グループ討議もテンポよく進行していた。
- ・高柳地域の未就学児は鯖石保育園に通っているが、現状では別々の小学校に入学することになる。子ども達が別々になることを心配する保護者もいる。保育園での交友関係が継続できるように早い段階での統合が望ましい。
- ・意見拝聴会の参加者から「鯖石と高柳は地域性が似ているところがある」との発言があり、両地区の一体感はある程度醸成されていると感じる。

続いて、中学校は統合の判断、決定が早急すぎるため、市の方針に反対である。その理由は次のとおりである。

- ・第五中学校の新校舎の完成や高柳中学校との統合から間がなく、他の中学校の再編に先行するかたちで統合する市の方針に、第五中学校関係者、児童・生徒、保護者、卒業生などは戸惑っている。
- ・環境が落ち着かない中での再統合は、不安定な環境が短期間に繰り返されるため、生徒をはじめ関係者の不安を増幅させる。
- ・門出から東中学校まで約25kmの距離があり、保護者は特に冬季の通学を心配している。その心配に対してスクールバスの直行運行などの具体策が提案されていない。
- ・東中学校と第五中学校の統合は最善なのか。意見拝聴会で「特色ある小規模校として存続できるのか」という意見があったが、判断材料が十分でなく今は判断ができない。
- ・現在、東中学校は校舎を改築中であり、学校、保護者、地域はそちらに目が向いている。第五中学校との統合に意識が及んでいない。

市への要望・意見である。

特に通学に時間を要する高柳地域の生徒に関して、保護者や生徒の理解が得られるよう、時間短縮や負担軽減に十分配慮した運行計画を作成し、早い段階でそれを提示してもらいたい。

また、統合により学校がなくなる地域の地域づくりについて、地域の衰退を心配する住民の声を真摯に受け止め、住民とともに地域づくりに取り組む

- 体制や仕組みを作ってもらいたい。
- 会長
委員全員
会長
委員
- : 3グループの発表に対して質疑はあるか。
 - : 質疑なし。
 - : 続いて、4グループの発表に移る。
 - : 4グループの討議結果を発表する。
- まず、小学校は学区再編方針に反対である。その理由は次のとおりである。
- ・地域で反対意見の人が一定数いる以上は、その人たちに納得いただく説明が必要である。
 - ・高柳小学校で複式授業を参観し、1学年1人での授業を目の当たりにして統合の必要性を感じるが、子ども達の問題、地域の問題、家庭の問題などが絡むため、もう少し時間を掛けて説明をして納得してもらう必要がある。
- 続いて、中学校も学区再編方針に反対である。その理由は次のとおりである。
- ・通学距離が長く、地域や保護者が通学時間を心配している。
 - ・第五中学校には学区外から通学している子どもが一定数おり、統合した場合にその子たちはどこに行けば良いかという明確な説明がない。
- 審議会の答申を受けて市長が最終的に決定すると思うが、地域の方々は審議会で話した内容が市に伝わっているのか分からない。また、市長が審議会の答申をどのように反映して決定したのかが分からないと地域の方々は納得できないと思うので、市長が決定したエビデンスを残してほしい。
- 会長
委員全員
会長
委員
事務局
委員
- : 4グループの発表に対して質疑はあるか。
 - : 質疑なし。
 - : 4つのグループの発表を聞いた上で、全体を通して質疑、意見はあるか。
 - : 例えば、小学校は統合し、中学校は統合しないという答申でも良いのか。
 - : そういった答申で結構である。
 - : 2グループは統合に反対している訳ではない。児童・生徒数が減少している中で統合の必要性を感じているが、解決すべき問題が多く、最低限、今年の冬の通学路の状況を見てから結論を出すべきだと考えている。特に高柳から東中学校までの通学時間を十分に考える必要がある。
- 会長
委員
委員
- : 端的に言うと2グループは統合を見送るべきだという考えで良いか。
 - : そのとおりである。
 - : 1学年1人の子どもがいる状況が問題視されているが、教育委員会では現在1学年1人の子どもに対してどのようなケアを行っており、統合までの2年間はどのようなケアを行うのか。また、統合を見送った場合はどのようなケアを考えているのか教えてほしい。
- 委員
- : 前の意見の補足だが、統合によって1学年1人の子ども達の環境を改善したいと考えているのであれば、今すぐにでも他校の子ども達と交流する機会を増やしたり、オンラインで交流を行うなど環境の改善に向けて積極的に動き出すべきではないか。
- 会長
- : 1人の子どもを積極的にケアすることは統合に関わらず現在も行っていると思うが、それ以上のことを求めるということか。
- 委員
- : 現在、学校で積極的にケアを行っていることは承知しているが、統合を押し進めるのであれば、学校だけでなく市全体で支援を考えていくべきだと思う。
- 委員
- : 賛成したグループの考え方は、統合して人数が多くなるから良いというだけではない。現在、高柳小学校では1学年1人であったり、近い学年の児童がいない状況があり、同年代の集団による効果を期待できない。周りの大人

や他学年と接することで、ある程度の社会性は育つとは思いうし、オンラインを活用した交流もできるが、直接触れ合えることが大切である。同年代の子どもと直接接することで感じる思いを尊重したいと考えている。

また、現在、鯖石保育園に通っている子ども2人が、再来年、就学することになる。そのタイミングで保育園で築いた交友関係を無駄にせず就学し、ある程度の人数の同年代の子どもと接することで、喜びや楽しみを感じ、経験値を増やすことが大切だと思う。高柳地域の保護者との意見交換の際には、保育園児の保護者から「統合に向けてもらって良い」「どちらかという反対だが、子どもは鯖石保育園で友達と楽しく過ごしており、その子たちと別れて高柳小学校に入学することに不安を感じている」という意見があった。

鯖石小学校への通学環境に不安はあるものの「鯖石小学校に対する不安はありますか」の問いかけに不安を訴える意見はなかった。

再編方針が示された機会を好機ととらえ、統合を進めた方が子ども達にとって良いと考えている。

委員：もし統合時期を延ばした場合、統合した際のメリットを受けることができない子ども達を教育委員会はどうかケアしていくのか教えてほしい。もしこれ以上のケアができないのであれば、統合時期を早めなければならないという判断になるかもしれない。

1学年1人ということの問題視しているのであれば、教育委員会はもっとその子ども達をケアしているべきだと思う。それをせずに「そういった子どもがいるのは問題だ」と急に言われても、今まで問題視していなかったのになぜかと感じてしまう。

事務局：教育委員会も学校も、学校の実情に応じて、できる限り子ども達のためになるように支援を行っているが、現在の高柳小学校の状況の中で、さらに子ども達の授業を改善するための支援は難しい。その実態を知ってもらうために審議会で資料を用いて説明したり、実際に高柳小学校を訪問して現状を見てもらった。

事務局：現在、高柳保育園は休園し、高柳地域の子ども達は鯖石保育園に通っているが、門出地域から通っている子どもが2人いる。当初は「門出地域から鯖石保育園まで通えない」という意見だったが、除雪や通園の支援等説明をさせていただき、「不安だが通ってみよう」と納得していただいた。

門出地域から東中学校へ通学するのは、教育委員会も解決しなければならない課題が多くあると感じている。ただ、門出地域から鯖石地域への通学は・通園は保育園においてある程度の実績がある。一り、完璧ではないが、少なからず通園に支障のない運行をしている。山中や塩沢といった地域も運行距離・時間は門出地域と大きく変わらない。この点も冬期間の通学を考える上での一つの判断材料としていただきたい。

委員：これまでも1学年1人の子ども達に対して支援を行ってきたと説明されたが、学区再編方針策定のきっかけである「総合教育会議で子どもの急激な減少を踏まえ、市長が早急な対応が必要だと判断した」という部分と食い違いがあるように感じる。教育委員会は以前から対応が必要だと感じていたが、市長には考えが伝わっていなかったということか。

事務局：市長と教育委員会が市の教育等について話し合う総合教育会議において「児童生徒数が減少してきている」という認識を市長、教育委員会ともに持っていることを確認した。その中で令和3（2021）年2月の総合教育会議で減少の急激さを改めて確認し、学校の再編を考えなければならないと判断した。

委員：高柳小学校と鯖石小学校で複式学級を初めて参観したが、それぞれの学校で教員が熱心に取り組んでいると感じたが、教員が授業を進めている一方で、前回の授業の復習をしている子どもがいるのはやはり問題だと思う。そのため複式学級の解消には賛同するが、統合までの期間が短い。

委員：2グループは小学校の統合に関して「統合の必要性があるが、解決すべき

- 課題が多いため統合を見送るべき」という意見だが、課題を一つ一つ解決すれば統合に賛成という考えで良いか。
- 委員：大きな課題は2つある。
1つ目は高柳地域で多くの反対意見が出ている中で性急に決める必要はないという点、2つ目は教育委員会が提示している門出地域から東中学校までの冬季スクールバス運行時間は45分程度だが、高柳地域は豪雪地帯であり、1時間以上かかるという意見もあるため、実際に今年の冬の状況を見て検討すべきという点である。
- 委員：小学校の統合と中学校の統合は分けて考えたの課題が一緒くたになっているため、まずは小学校の統合をどうするか、次に中学校の統合をどうするかを別々に議論した方が良いのではないか。
- 委員：もし鯖石地域の賛同が得られ、東中学校と第五中学校が統合することになった場合、高柳小学校の子どもは鯖石小学校と統合すると必然的に東中学校へ通うことになる。そういった点で小学校と中学校を分けて考えるのは難しいのではないか。
- 委員：高柳では高柳小学校と鯖石小学校、第五中学校で一つの学園ゾーンという考えを持っている人もいる。その先に更に東中学校があるとなれば話が変わってくるため、東中学校と第五中学校との統合には反対という意見がグループの中では多い。
- 事務局：教育委員会が提示している再編方針は一つの場合であり、例えば東中学校ではなく北条中学校との統合など、様々な選択肢についても審議会で検討していただきたい。
- 委員：仮に北条中学校と第五中学校が統合することになり、第五中学校の校舎を使うことになった場合、北条地域からは反対意見が出ることが予想される。地域と話し合いをせずに審議会が他の地域との統合を検討するとまとまらないと思う。
- 会長：他の学校に関連する議論は、その地域の意見も聞かなければならないため、今の審議会では難しい。
- 委員：第五次総合計画の後期基本計画では、高柳・鯖石地域は令和23（2041）年度に人口が260人になると想定されている。そうした場合に「子ども達が学校に行くことが難しいため、他の学校と統合したらどうか」という意見が地域から出てくると思う。高柳地域は現在、人口を増やそうと活発に活動しており、今後子どもが転入してくるかもしれない。
2グループでは、コミュニティとして子ども達をどのように育てていくか計画ができていない中で地域に学校がなくなってしまうと、地域から子どもが出ていってしまう可能性がある。高柳地域の人はその点を心配していると思う。統合時期を1年ほど延期し、コミュニティも準備ができた段階で統合したらどうか。
- 会長：2グループは統合を見送るという意見ではなく、統合を延期するという意見で良いか。
- 委員：そのとおりである。
- 委員：8月22日に高柳地域で統合に関する検討委員会が開催された。検討委員会の中では8月5日に阿部会長及び徳永副会長と高柳地域関係者、高柳の保護者との意見交換の内容を伝えあった。
地域としては中学校が閉校になり、保育園が休園になっている状況で小学校が地域からなくなるのは残念だという思いが強いが、保護者の意見を尊重したいと思っている。鯖石保育園に通っている子どもが鯖石の子どもと別れて高柳小学校に入学することが不安であるという意見がある以上、反対意見だけでなくそういった意見も大切にしていかなければならないと改めて感じた。参加した保護者の中では「統合もやむを得ないが、統合までの期間が短すぎるため慎重に検討してほしい」という意見も挙げた。
9月の意見交換会では審議会としての方向性を説明すると思うが、方針に賛成、反対など具体的な方向性を説明するのか。また、地域住民から様々な

意見が出ると思うが、出た意見に対してその後の審議会で検討し、答申に反映させるのか。

会 長 : 審議会が方向性を持たずに意見交換会に臨むのであれば、前回の意見拝聴会と同じく意見を聞くだけになってしまう。これまでの様々な意見を踏まえた上で、今回の意見交換会では審議会として答申素案のような一定の方向性を持って意見を聞く。その段階で今までと同じ意見が出るのであれば、それらの意見も踏まえて出した方向性であるため方向は変わらないと思う。ただし、新たな意見が出た場合は、それは審議会として改めて検討する必要がある。

委 員 : 4グループの反対意見についても、賛成か反対かで考えた場合にもう少し地域への説明が必要であることから反対とした。

ただ、学区再編方針に記載がある児童生徒数の推移を確認し、子ども達にとって何が一番良いのか、1、2年延期した場合にその状況が打開できるのかをもう一度各委員から考えてもらいたい。

委 員 : 中学校の統合に関して「統合には賛成だが時期尚早である」という意見や「統合を肯定も否定もしないが時期尚早である」という意見がある。そうした場合に、一定の方向性は「市の方針には賛成できない」という程度にとどめるのか、「時期尚早だが統合には賛成である」というところまで踏み込むのか。

会 長 : どういう方向にするかは次回の審議会で決めていくことになる。ただ、答申はある程度具体的に示すものだと思っている。例えば統合を延期するのであれば、何年間延期するかまで決めるのが理想である。

統合そのものに反対なのであれば「統合に反対する」という方針が良いが、そうでない場合はある程度具体的な道筋を示す答申でなければ答申の意味がないと考えている。

委 員 : 中学校の統合に対する具体的な方向性はあと1、2回の審議では決まらないのではないかと。

会 長 : 答申素案と言い切ってしまうと最終的な答申に近い形になるが、方向性という場合にはある程度範囲を広げた形もあり得ると考えている。意見交換会の日程も決まっているため、決められた日時の中で審議を行い、方向性を出したい。

次回の審議会で一定の方向性を出す審議を行うので、2週間の間で委員一人ひとり考えてもらい、活発な審議をお願いしたい。

【その他】

事務局 : 次回の審議会は、9月8日（木曜日）午後6時30分から市役所1階多目的室1、2で行う。

以上、相違ないことを確認する。

令和4年（2022年）9月8日

会 長 阿 部 義 章

副会長 徳 永 優 子